

# 中心地理論

都市の立地の規則性

## 都市の分布にみられる規則性

- 「都市」は、一定地域の[<sup>①</sup>]の中心
- 「都市」は、遠方から消費者を集める「<sup>②</sup>」([<sup>③</sup>])をもつ
- 「<sup>②</sup>」には階層性がある
- 中心地の立地は、財・サービスを提供する供給側（事業所）の行動と、需要側（消費者）の行動との均衡の上に成り立つ

# クリスタラーの中心地理論

## 商業中心地の立地の規則性

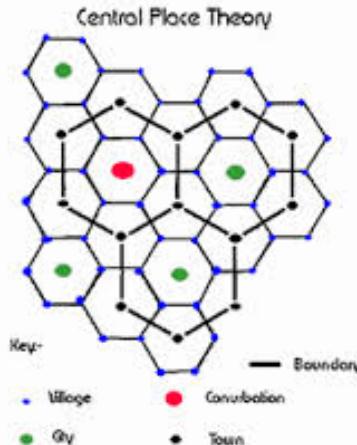


WALTER CHRISTALLER  
1893–1969

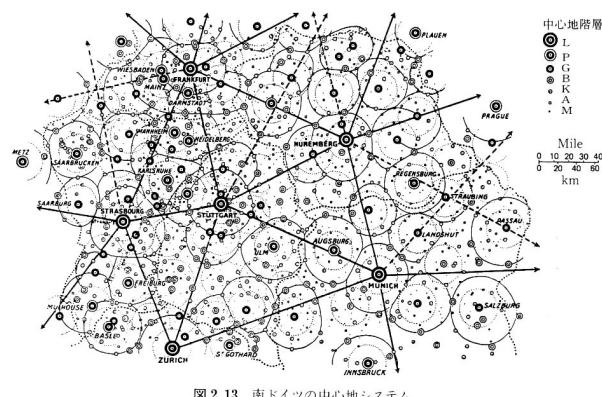
出典：faculty.washington.edu

Walter Christaller

Die zentralen Orte  
in Süddeutschland



<http://www.csiss.org/classics/content/67>  
Copyright © 2001-2011 by Regents of  
University of California, Santa Barbara,  
Page Author: Pragya Agarwal



出典：杉浦（1989）

### 理論の前提

[④]に分布, [⑤]に発達

]に発達

### 第二次大戦前の南ドイツの風景

「中心地」 ÷ 「都市」

周辺部は「⑥」

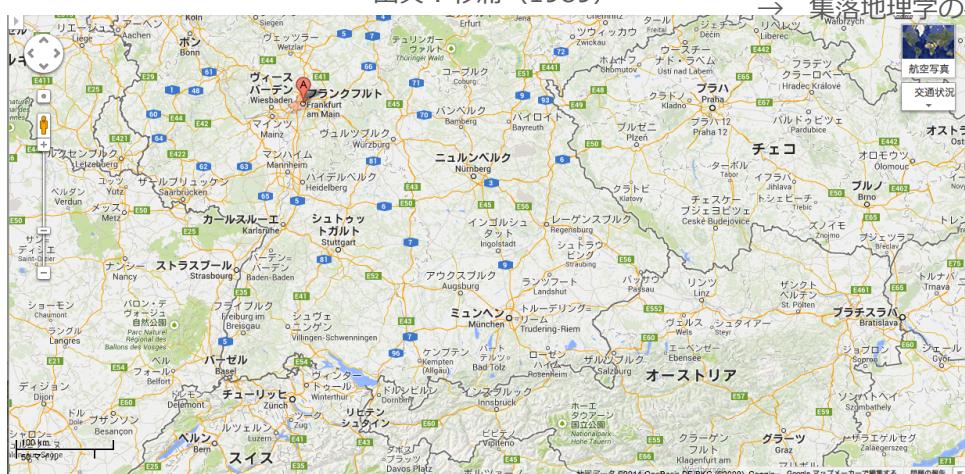
ヨーロッパでは都市と農村の境界明瞭  
城郭等の文化的背景

「都市」 = 「権力の象徴」

= 経済, 行政, 文化の頂点

### クリスタラーが目指したもの

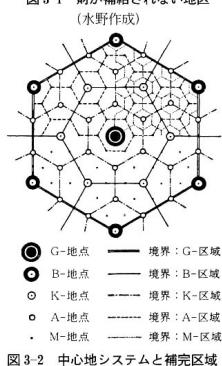
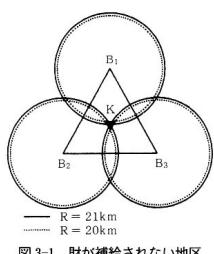
→ 集落地理学の社会科学化



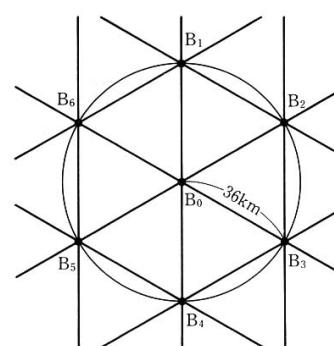
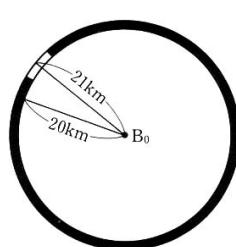
# 中心財の到達範囲の概念

- [⑦] … その範囲を超えると、その中心地から財を供給できなくなる限界
  - (例：中心財を購入するために、この距離までなら移動してもよい、という限界値)
- [⑧] … 中心地において財を供給する最小販売量、中心地からの最小距離
  - (例：これだけ人口がいれば成立)
- [⑦ ⑧] (成立閾threshold) は必ずしも一致しない
  - 例：(⑧ を満たす) 十分な人口がある地域に、中心財Aを供給する施設が立地
- 中心財Aの供給は、平野全体に及ぶのではなく、⑦ が存在する
  - (例：半径○km以上は供給不可)

# 中心財の到達範囲の概念



出典：杉浦（1989）



出典：杉浦（1989）

B中心地から財の上限21kmの「財21」を平野にくまなく分配

3つB中心地 (B0,B3,B4) いずれからも「財21」が供給されない場所「K4」が出現  
ここに、K階層中心地が六角形状に成立  
(1つ上のB階層よりも、規模の小さい中心地)

## 市場原理に基づく中心地 ( $k=$ <sup>⑨</sup>)

市場内に、各階層の中心地がいくつあるか？

「大」は「小」を兼ねる。

(例：G階層やB階層はK階層以下の機能を兼ねる)

階層別市場地域の数  $a_n = ar^{n-1}$

1G-3B-9K-27A-81M ···

$r =$  となる

··· K階層より下は「<sup>⑨</sup> の倍数」(図2.8)

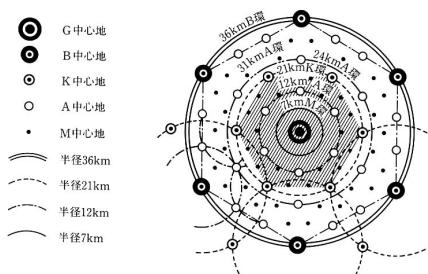
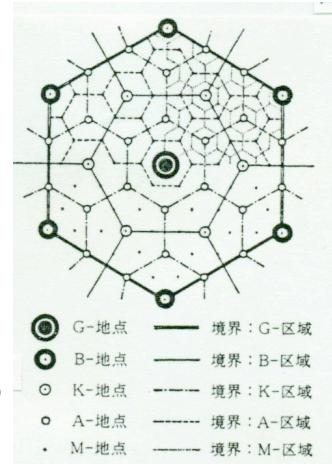


図2.8 市場原理に基づく中心地システム

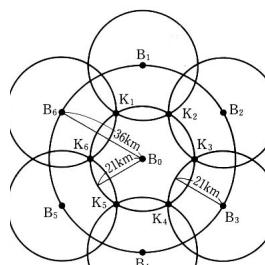


図2.6 K中心地の立地

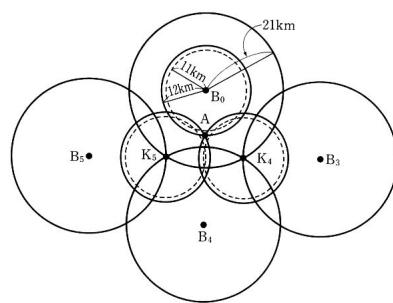


図2.7 A中心地の立地

すべての図の出典：杉浦（1989）

## 交通原理に基づく中心地 ( $k=$ <sup>⑩</sup>)

中心 (G, 黒丸) から、周囲の6つのB中心地 (二重丸) へ  
放射状の[<sup>⑪</sup>]を配置



道路上にK中心地 (黒丸) が立地  
<市場原理と大きく異なる>

建設費の安い[<sup>⑫</sup>]上に  
多くの上位中心地を配置しようとする原理

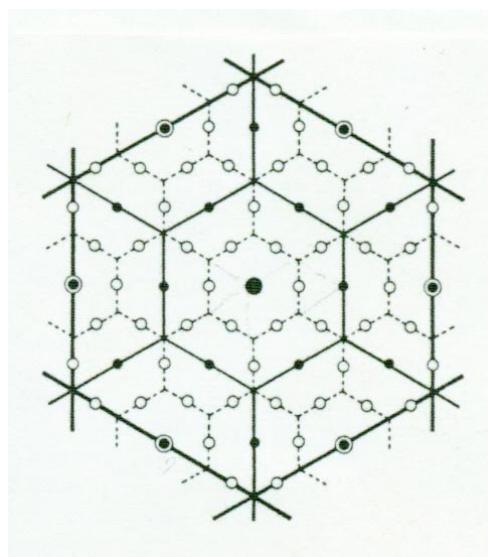
階層別市場地域の数

1-4-16-64-256 ···

··· K階層より下は「<sup>⑩</sup> の倍数」

$a_n = ar^{n-1}$  <sup>⑩</sup>

$r =$  となる



出典：杉浦（1989）

## 行政原理に基づく中心地 ( $k=$ <sup>⑫</sup>)

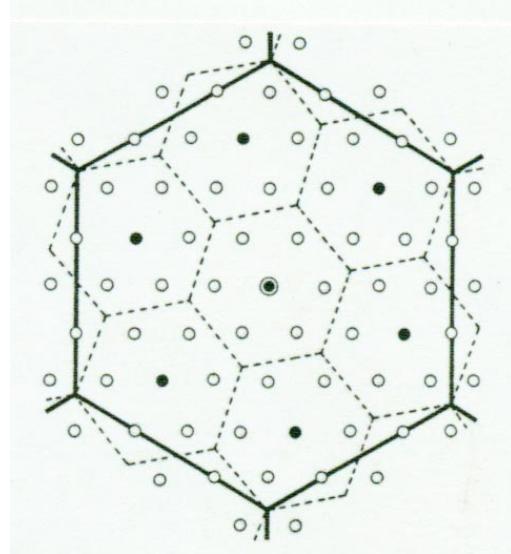
下位中心地は、「ただ一つの上位中心地に従属」するように分布

階層別市場地域の数

1-7-49-343 . . .  
. . . K階層より下は「<sup>⑫</sup> の倍数」

$$a_n = ar^{n-1}$$

$r =$ <sup>⑫</sup> となる



出典：杉浦（1989）